



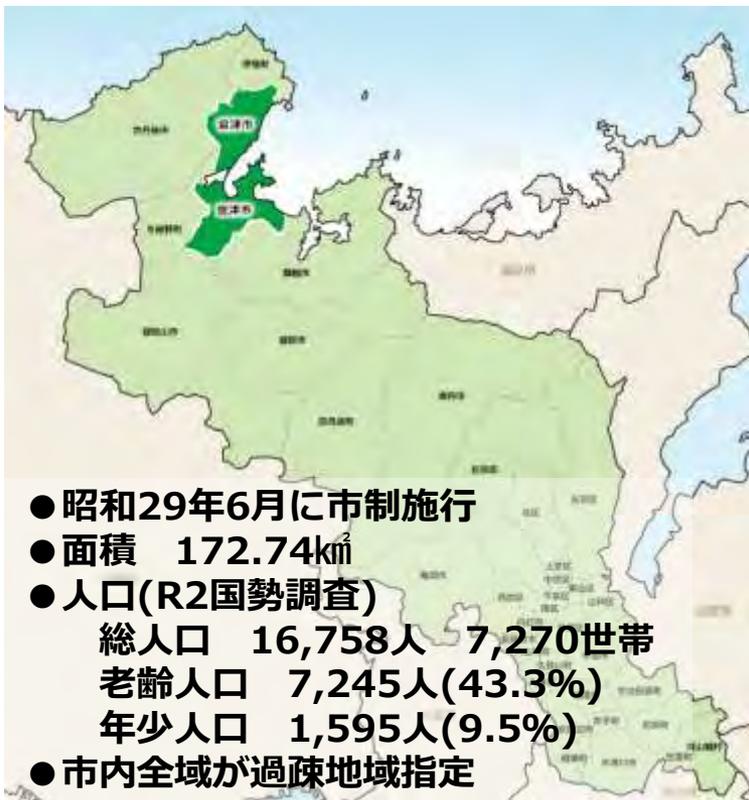
地方公共団体における「少子化対策地域評価ツール」を活用した「地域アプローチ」による少子化対策の推進に関する調査研究事業

実施報告

令和4年2月21日

日本三景・天橋立があるまち
宮津市

宮津市の概況



●産業

【観光】

北近畿の観光拠点として、年間約300万人の観光客が訪れる。天橋立をはじめとした既存の観光資源に加え、歴史を活かした滞在型観光への転換を進めている。

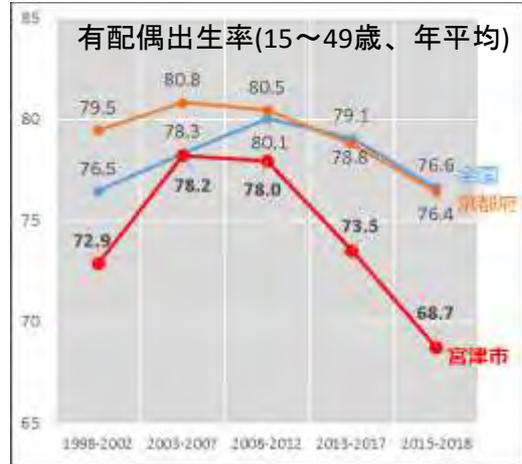
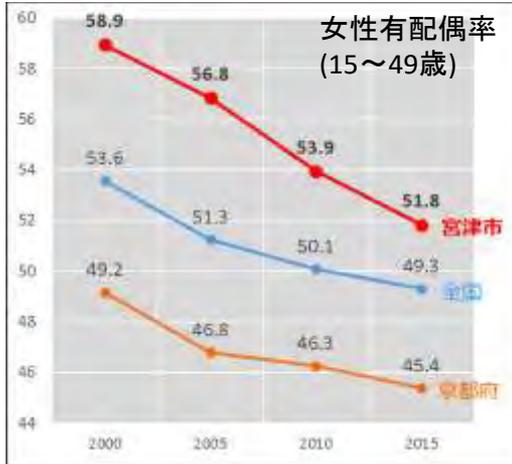
- ・観光入込客数 302.5万人(R元) (H26 : 273万人)
- ・外国人観光客宿泊数 5.4万人(R元) (H26 : 1.9万人)

【農林水産業】

水稻を主体として、花き、山の芋などの地域特産物
 定置網漁業を中心とした沿岸漁業
 近年は、新たな特産品(オリーブ、乾燥なまこ等)に取り組む。

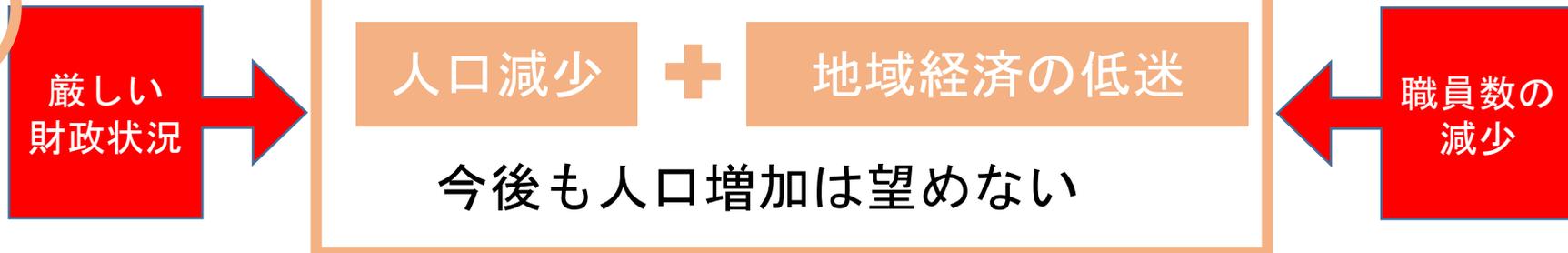
【商工業】

ニッケル製造、メリヤス生地製造などの工場や海産物加工



本事業に参加したのはなぜ？

現状



このような中、第7次総合計画(R3~R12)に定める

重点プロジェクト「若者が住みたいまちづくりプロジェクト」を実施し、
若者が住みやすく、子育てしやすい環境を作るには



地域の強みや要因、課題の分析を行い、
効果的な対応策を実施していくことが重要！



そのため、

有識者の助言を得ながら客観的・主観的な分析を行い、
対応策を検討するため、内閣府モデル事業を活用！

宮津市の子育てに関する強みは？

① ショッピングセンター内にワンストップ相談体制を整備！

- ・ 妊娠期から中学生まで「子どもの福祉・健康・教育」をワンストップで相談対応可能な体制を整備
- ・ 行政窓口と子育て支援センター「にっこりあ」、図書館を1カ所に設置



子育て支援センターにっこりあ

② 幼児教育・保育の充実

- ・ 幼稚園給食の開始、保育料軽減、保育コーディネーター配置、病児・病後児保育施設の運営、円滑な就学に向けた保幼小連携等
- ・ SNS等を活用した情報発信、子育て世代の交流促進、オンライン子育て相談の実施等

③ 学校教育の充実

- ・ 普通教室へのエアコン整備率100%、GIGAスクール、小中一貫教育の推進、中学校給食開始等
- ・ コミュニティ・スクールで地域と学校が連携・協働し、自然や歴史、生活文化等を題材とした宮津ならではの地域学校協働活動を展開

④ 放課後児童クラブの充実

- ・ 全放課後児童クラブを学校敷地内開設・開設時間延長等

⑤ 豊富な地域資源

- ・ 市内に子育て支援に取り組む団体が複数ある。
- ・ アンケートでも、9割近くが、子育てに関して宮津の良いところは「海、山、川などの自然が豊富」と回答
- ・ 各地区に祭や伝統文化等が伝わり、子ども達も参加

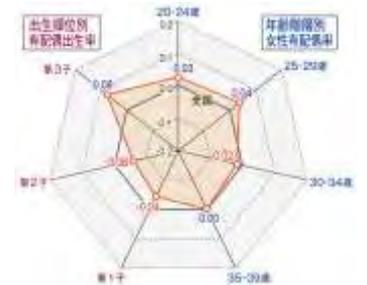


強みを活かした少子化対策の実施が重要！

調査研究事業で取り組んだこと

① 既存の統計データ等の調査・分析

- ・ 京都府作成の『地域子育て環境「見える化」ツールver.1』を活用し、出生構造を分析
- ・ 国勢調査や住民基本台帳人口移動報告、転入・転出へのアンケート結果(宮津市独自)等を分析し、本市の人口構造の変化を確認



② 子育てママを対象としたワークショップ、座談会の実施

- ・ 子育て支援センター「にっこりあ」を利用する子育てママと市長の座談会を開催
→子育てに関する悩みや要望、地域に望むこと等について意見交換
- ・ 子育てサークル等を開催する子育てママを対象にワークショップを開催(3回)
→子育て当事者が考える少子化の要因や子育て当事者が望む幸福感、地域の方との関り方、子育てママの求めるもの等について意見交換



ワークショップ



座談会

③ 子育て世帯(18歳以下の子どもがいる世帯)を対象としたアンケートの実施(R3.12実施)

- ・ 宮津に住むことに至った理由、若者や子育て世帯が宮津に住むために必要なこと、子育てにとって宮津の良い所・悪い所、望む子育て施策等について質問
- ・ 回答者数：97名

④ 庁内での情報共有



宮津市の少子化の要因を考える！

①宮津市の人口減少の構造

- ・宮津市に人口は、自然減少と社会減少の両方により、減少している。
- ・近年は、自然減少が大きく影響しており、**特に出生数の減少が大きく影響**

②宮津市の少子化の要因(仮説)

出生構造レーダーチャート
(2015-2018年、全国=0)



仮説 1

宮津市に住んでいるが、第1子、第2子の出産にハードルがある



要因の仮説を踏まえ…

取組の柱
1

希望どおり、子どもを持てるようにする！

仮説 2

結婚を契機に市外に一定数が転出する

仮説 3

若年女性が進学・就職により転出し、戻ってこない



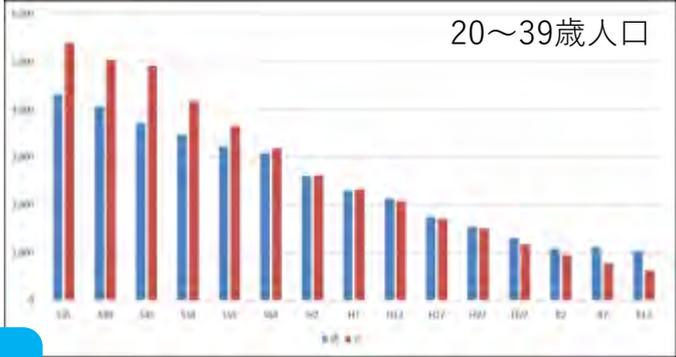
要因の仮説を踏まえ…

取組の柱
2

宮津市に住んでもらう、住み続けてもらおう！

宮津市有配偶出生率

	1998-2002	2003-2007	2008-2012	2013-2017	2015-2018
年平均	72.9	78.2	78.0	73.5	68.7
第1子	30.2	33.3	30.8	31.5	29.5
第2子	26.7	27.9	27.8	24.7	22.4
第3子	12.6	12.8	15.1	12.8	12.6



取組の柱 1 希望どおり、子どもを持てるようにする！

●現状はどうなっている？

・アンケート結果から…

- ①約7割が子どもは「2人以上」ほしいと回答
- ②市の子育て支援として、「子育てや教育・保育に係る費用負担の軽減」「子どもの体験活動や世代間交流」が不十分と感じている人が多い。

・座談会・ワークショップから…

- ①子どもを預けて、自分の自由になる時間がほしい。
- ②子どもを連れて、出かけられる場所がほしい。
- ③ママ同士、地域の人達等とのつながりができる場があれば。
- ④ママが幸福感を感じる場所や時間が必要なのでは？

・統計から…

- ①近隣市町と比較して、世帯所得額が低い。



**右の視点を重視し、
施策を検討！**



取組の柱 1 希望どおり、子どもを持てるようにする！

「希望どおり、子どもを持てるようにする！」の実現に向けて…

施策の方向性	取組内容	具体の施策案(直近)
①子育てに係る費用負担の軽減	経済的負担軽減に向けた子育て世帯の就労に繋がる仕組みづくり	子連れコワーキングスペースの整備や女性のキャリアアップ支援等
②費用軽減以外の子育ての負担軽減	子育て支援体制の充実による子育ての負担感の解消	地域等と協働した、地域資源活用型の子どもの体験活動等の実施 地域の子育て支援団体等のネットワーク化
③子育て世代の望む施策の実施		子育て当事者(パパ・ママ)による情報発信 子育て支援センター「にっこりあ」等を活用し、子育てママの自由時間確保のための託児サービスの実施 子連れでも行きやすいお店等を増やすため、宮津市子育て応援事業者認定制度の推進強化

取組の柱 2 宮津市に住んでもらう、住み続けてもらおう！

●現状はどうなっている？

・アンケート結果から…

- ①若年女性は、進学・就職を機に転出する人が多い。
- ②若者や子育て世帯に戻ってきてもらうために必要なものは、約8割が「働く場の確保」と回答
- ③約半数が「結婚時」に、約1割が「小学校就学時」に居住地を決めている。
- ④居住地を決める理由は、16%が「子育て環境」、8%が「教育環境」と回答

・座談会・ワークショップから…

- ①宮津市は「土地が高い」ので、他市町に家を建てるという意見があった。

・統計から…

- ①男性と比べて、女性は進学等で転出後に戻ってこず、若年層では男性より女性が少ない。
- ②20～39歳は、近隣市町への転出が多い傾向
- ③近隣市町と比較して、市街地の地価が高い。



**右の視点を重視し、
施策を検討！**

重視する視点

若者・女性に
選ばれるまち

就労の場
づくり

保育・教育
環境の向上

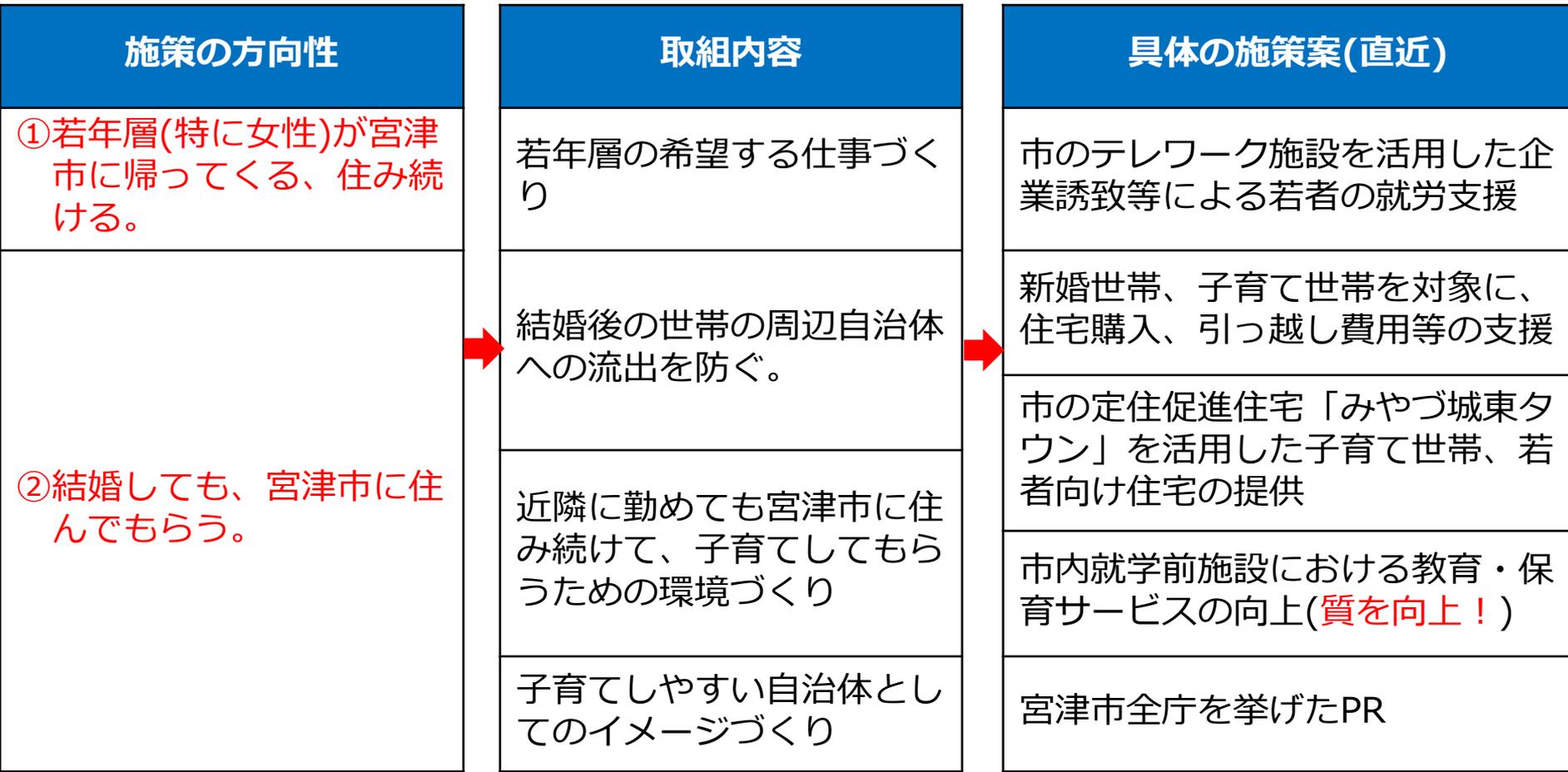
住み続けて
もらうまち

イメージ
アップ

既存資源
の活用

取組の柱 2 宮津市に住んでもらう、住み続けてもらおう！

「宮津市に住んでもらう、住み続けてもらおう！」の実現に向けて…



ご清聴ありがとうございました。

10年後に向けて始動

まちから外へ、外からまちへ。

すべてが活発に行き交い、そして暮らしを豊かに高め合う。

そんな橋のようなまちを、宮津はこれから10年で目指していきます。
天橋立に負けない（はじない）くらい、魅力的でワクワクできるまちへ。

さあ、10年後の未来に向けて、

共につなごう。

宮津 という橋を。

(参考)宮津市のこれまでの取組

①少子化対策に向けた現状の取組

○移住・定住の促進

- ・UIターンサポートセンターによる総合的な移住・定住支援の実施
- ・関係人口の創出・拡大に向けた副業人材の活用やワーケーションの推進等

○ショッピングセンター内にワンストップ相談体制の整備

- ・妊娠期から中学生まで「子どもの福祉・健康・教育」をワンストップで相談対応可能な体制を整備
- ・行政窓口と子育て支援センター、図書館を1カ所に設置



子育て支援センターにっこりあ



宮津市立図書館

○妊娠～出産期の支援

- ・特定不妊治療に要する交通費の助成、産婦健診・産後ケア事業の実施等

○幼児期の支援

- ・幼児教育・保育の充実(幼稚園給食の開始、保育料軽減、保育コーディネーター配置、病児・病後児保育施設の運営、円滑な就学に向けた保幼少連携等)
- ・SNS等を活用した情報発信、子育て世代の交流促進、オンライン子育て相談の実施等

○小学校～中学校期の支援

- ・学校教育の充実(普通教室へのエアコン整備率100%、GIGAスクール、小中一貫教育の推進、中学校給食開始等)
- ・放課後児童クラブの充実(全放課後児童クラブを学校敷地内開設・開設時間延長等)

(参考)宮津市のこれまでの取組

子育て世代へのきめ細かなサポート拠点

～妊娠期から就学期まで、福祉・教育総合プラザで切れ目ない支援を展開～

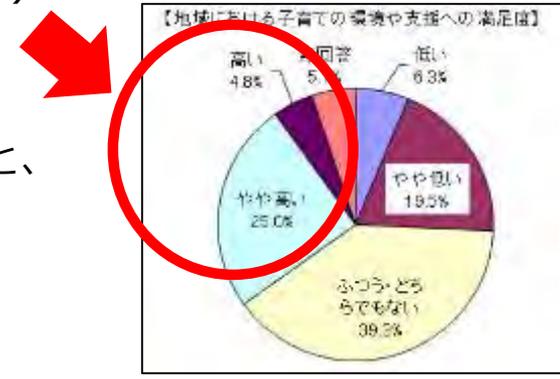


(参考)宮津市のこれまでの取組

②少子化対策等の成果・課題

↑保護者の満足度は向上!

- ・ H30に実施した未就学児保護者のニーズ調査では、宮津市における子育ての環境や支援に対して、29.8%が「満足・大変満足」と回答し、前回調査(H25)の15.3%から満足度の高い保護者の割合が**約2倍**となった。



※H30子ども・子育て支援ニーズ調査（未就学児童）

↑近年、0～14歳人口は転入超過

- ・ 宮津市全体で見ると転出超過が続いているが、0～14歳に限ると、H30以降は転入超過となっている。

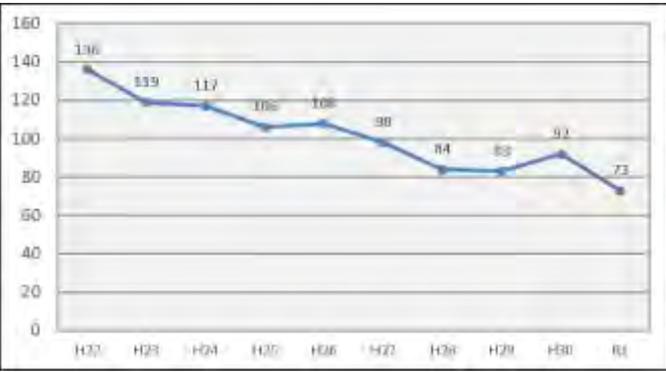
↓出生数は減少

- ・ 10年間で約半分に減少(H22:136人→R1:73人)

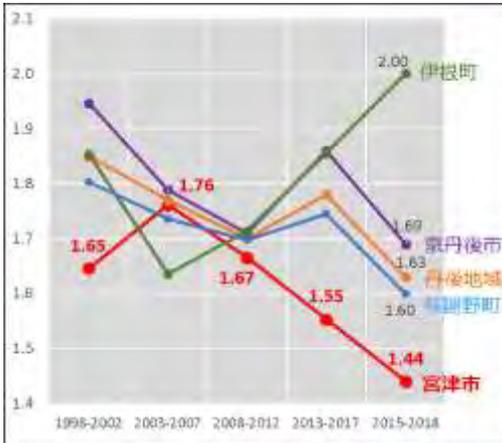
↓合計特殊出生率も減少

- ・ 減少し続けるとともに、近隣市町と比較しても低くなっている。

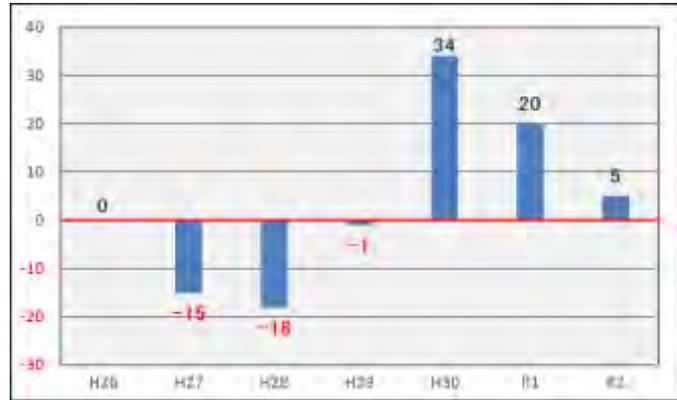
【年間出生数】



【合計特殊出生率】



【0～14歳人口の社会増減】



(参考)今後の大きな方向性

今回の調査事業の成果を活用し、第7次宮津市総合計画の2つの重点プロジェクトを効果的に進めていきます！

2021年度からの10年間

若者が住みやすく、子育てしやすい環境を重点的に

「若者が住みたいまちづくりプロジェクト」

子どもを産み育てやすい環境

調査事業で得られた視点

妊活から就学前までの子育て・子育て支援
【子育て支援の重点方策】

質の高い学力の育成・学校教育環境の充実
【学校教育の重点方策】

仕事と家庭の両立と女性活躍の促進
【男女共同参画・女性活躍の重点方策】

地域資源を活用した子育て支援

市民と連携した子育て支援

若者が住みたいまちづくりプロジェクト

宮津ファンの増加から関係人口創出・拡大
【関係人口創出・拡大の重点方策】

Uターン強化・移住者の呼び込み
【移住・定住促進の重点方策】

地域の課題解決のための外部人材導入
【地域コミュニティ・市民協働の重点方策】

合計特殊出生率UP、若者人口増加

若者や子育て世代が住みたくなる地域

(参考)今後の大きな方向性

2021年度からの10年間

新たな事業の創業など積極的なチャレンジを重点的に

「宮津の宝を育むチャレンジプロジェクト」

観光戦略の策定 ⇒ 宮津の様々な魅力を体感・拡散

調査事業で得られた視点

企業誘致、創業・事業継承や新規事業の支援
【商工業振興の重点方策】

宮津ならではの商品づくり、飲食店ブラッシュアップ
【商工業振興の重点方策】

顧客ニーズを踏まえた生産・加工、地産外商
【農林水産業振興の重点方策】

文化財の地域での活用、天橋立の世界遺産登録推進
【文化財保存・活用の重点方策】

大型客船等誘致、新たな周遊観光、島崎ウォーターフロント
【海の活用の重点方策】

宮津の宝を育むチャレンジプロジェクト

若手人材等の育成、地域による新たな事業化支援
【市民協働の重点方策】

若者や女性が希望する仕事づくり

広域で連携した仕事づくり

市内総生産UP、所得向上

チャレンジしていく人材の育成と新規事業の創出